

投光器 学習版

国労東海貨物協議会
2012年1月25日 No.2
発行責任者 鈴木 和巳

前号に引き続き組合の事を書いていくよ～

前号では労働組合の役割や東海支社の各組合について書きましたが、今回は組合と会社の関係に触れたいと思います。

組合って必要なの？

労働者の誰もが賃金が多くなることや安全な職場環境を望んでいます。また、会社の施策に対し疑問や不満を持つことがあるでしょう。こんな時、労働者個々が会社に物を言っても会社は相手にしてくれません。しかしながら一定の組織を持つ組合からの意見に対して、会社は無視出来ません。組合が無ければ会社のやりたい放題になってしまいます。



じゃあ組合は一つで良いのでは？

前号でも触れましたが、各組合にはそれぞれ主張があります。会社からすれば会社の言うことを聞く組合（労使協調組合）が一つあれば十分と考えていると思いますが、そうすると労働者の要求が抑えられる恐れがあります。会社に守られている組合では労働者の生活を守ることが難しいと国労は考えます。

会社に守られている組合って？

青年労働者の皆さんは労働組合にどのようにして加入しましたか？
それこそ訳も分からずに食事に連れて行かれ「一番大きな労働組合だから」とか「貨物労に入ったほうが得だから」などと言われて加入したのではないのでしょうか？

会社と貨物労組により新規採用者を貨物労へ一括加入させるということが続き、貨物会社発足以降はほとんどの青年労働者が貨物労に加入しています。

前段でも述べたように労使協調組合は労働者の要求を抑えるために会社がテコ入れしています。

国労は新規採用者が職場に配属され、職場の実態などを見た中で組合を選べるように、組合説明の場を会社に求めています。



次号につづく